

Stage7

George's Bright Idea

ジョージの名案

作・イアン・ホワイブロウ

絵・ヴィンセント・ヴィグラ

<読むまえに>

お子さんが読むまえに、この本についてお子さんと話すのはいい考えですね。

- ・表紙と裏表紙をお子さんと一緒に見ましょう。ページをパラパラとめくって写真を見てください。お子さんにこんな質問をしてみましょう：
 - ・この本はどんなことについて書かれていそうかな。
 - ・ジョージはどんな男の子だろう。この話を読む前と読んだあとで自分の考えをくらべてみよう。最初に思ったことはあっているかな。
 - ・この本はどんな本になるかな。

自分のスピードでこの話を読めばいいよと、お子さんにいってあげましょう。

<ひっかかることば>

ここにあるのは、お子さんがこの本を読むときにひっかかりそうなことばです。

childminder 子どもを預かって世話をする人

garage 車庫

business 商売、景気

customer 客

complain 文句

favourite お気に入りの

magazine 雑誌

brain 脳

[p. 1]

ジョージの名案

作・イアン・ホワイブロウ

絵・ヴィンセント・ヴィグラ

[p. 2]

ジョージはなまけものでした。一日中、コンピューターゲームをしていました。テレビを見る時だけ、コンピューターゲームをやめました。ジョージはおかあさんとおとうさんのやる仕事を手伝いませんでした。

[p. 3]

ジョージのおかあさんとおとうさんは「フレッシュフィッシュ(新鮮な魚)」という小さな喫茶店をやっていました。おかあさんとおとうさんは一生懸命に働きましたが、収入はそれほどありませんでした。

<フレッシュフィッシュ(新鮮な魚)>

[p. 4]

ある日、なまけもののジョージはテレビを見ていました。

電話が鳴りました。子守りのリジーには電話の音が聞こえませんでした。ジョージは電話をほうっておきました。電話はずっと鳴りつづけました。ようやく、ジョージは床のうえの電話を引きずり寄せました。

「ジョージかな？」おとうさんが言いました。

「うん」ジョージは答えました。

[p. 5]

「こっちに来て、お店を手伝ってもらえないかな？」お父さんがたのみました。「きれいに掃除しなきゃならないんだよ。ゴム手袋を持ってきてくれないか」

「ぼくが？」ジョージはたずねました。

「ああ、きみが」おとうさんは言いました。

[p. 6]

ジョージはテレビの前から引き離されるのはいやでした。喫茶店を手伝わなきゃいけないというのは、もっといやでした。しかも大好きなテレビ番組『モンスター・トラック』を見逃すことになるのは最悪でした。

[p. 7]

ジョージはドスドスンと台所に歩いて行って手袋を見つけました。

ジョージはドスドスンと外にでて行って、リジーにこれからお店にいくと言いました。

それからジョージはドスドスンとガレージにいて、自転車をひっぱりだしました。

[p. 8]

お店にはお客さんがひとりしかいませんでした。でも洗わなくてはいけない鍋がたくさんありました。

「どうして食器洗い機を買わないのさ？」ジョージは不平を言いました。

[p. 9]

おとうさんはため息をつきました。「そんな余裕はないんだよ、ジョージ。商売がうまくいっていないんだ。みんな、魚よりハンバーガーのほうが好きなんだよ」

[p. 10]

ジョージの口はあいたままでした。それほどひどいことになっているとは知りませんでした。そのためジョージは、いつもほどには文句を言わずに、食器を洗って片づけるのを手伝いました。

[p. 11]

ジョージが手伝いを終わると、おかあさんがジョージのほほにキスをしました。

「この魚のパイを夕食に持って帰りなさい」おかあさんが言いました。「あなたの好物よ」おかあさんは悲しそうに疲れているようすでした。

[p. 12]

ジョージはドスドスンと玄関の階段を上がって、ドアをバタンと閉めました。

「ただいま！」ジョージはリジーにさげびました。リジーには聞こえませんでした。

[p. 13]

ジョージは魚のパイを電子レンジに入れました。それからお盆に魚のパイを乗せて、テレビの前に座りました。魚のパイはおいしかったです。

「みんなどうしてこれよりハンバーガーのほうがいいんだろう？」ジョージは声にだして言いました。リジーには聞こえませんでした。

[p. 14]

ジョージはチャンネルを変えたいと思いました。でも、テレビのリモコンが見つかりません。ジョージはソファの背もたれの下をさがしました。

[p. 15]

ジョージはテレビのリモコンを見つけました。

そしてさらにみつけました……

……カギがいくつかと、

……おかあさんの指輪と

……おもちゃと

……雑誌を見つけました。

<カフェ文化>

[p. 16]

その部屋は散らかって見えました。ジョージはおかあさんの悲しそうで疲れた顔を思い出しました。おとうさんの沈んだ声を思い出しました。

「そうだ！ ふたりのためにぼくが片づけよう」ジョージは考えました。

[p. 17]

まず最初に、ジョージは台所へいってお皿を洗いました。リジーは疲れ果てているようでした。そこでジョージは言いました。「ぼくが掃除している間、テレビを見てて」

ジョージは掃除を終えたときにとっても得意な気分でした。

[p. 18]

それからジョージはすわりました。ジョージは見つけた雑誌を読みはじめました。家に帰ってきたとき、ジョージの両親はびっくりしました。ジョージは読書をしているし、部屋がきれいだったので。両親はジョージが見つけたものを見ました。

<魚を食べることは脳によい>

[p. 19]

「私の指輪だわ！」おかあさんは笑いました。「永久に失くしちゃったと思ってたのよ！」

「ぼくのかぎもある！」おとうさんは満面の笑顔で言いました。

[p. 20]

おかあさんは、それほどのなまけものじゃないジョージを抱きしめました。

おかあさんは言いました。「ありがとう、ジョージ。商売はうまくいっていないけど、少なくとも家はき

ちんと整ってるわ！」

[p. 21]

その後、ジョージは雑誌で読んだことについて考えました。それにはこう書いてありました。「魚を食べることは脳にいい！」。それがジョージは名案が思いつかせました。

<魚を食べることは脳にいい>

[p. 22]

3か月後、ジョージは自転車に乗ってお店にいきました。店は満員でした。ジョージは立ち止まって見あげました。「ブレインフード(頭脳食)」という鮮やかな新しい看板がカフェの上にかかっていた。おとうさんが出てきました。

「手伝おうか？」ジョージがたずねました。

[p. 23]

「頼むよ！ 本当に忙しいんだ、助かるよ！」おとうさんは誇らしげに言いました。「新しい名前にしてすっかり変わったよ。こんな名案をどこから思いついたんだ？」

<ブレインフード(頭脳食)>

[p. 24]

「ソファの背もたれの下さ」ジョージは言いました。

<カフェ文化>

<読んだあとで>

読んだあとで、この本についてお子さんと話しましょう。こんな質問をしてみましょう：

- ・この話の最初ではジョージをどのような人間だと説明する？ 話の最後ではジョージをどのような人間だと説明する？ どちらのジョージのほうが好き？
- ・どうしてジョージは変わったんだと思う？
- ・この本のなかに子守りとイヌがでてくるのに気がついた？ 子守りとイヌはなにをしていたんだろう？ 子守りとイヌがジョージについてもっとなにか教えてくれると思う？
- ・この本は気に入った？ それはどうして？

<ほかにすること>

この本のことをくりかえし話題にしましょう。お子さんとジョージがどのように似ているか、どのように違うか話しましょう。

お子さんは、「ブレインフード(頭脳食)」カフェを宣伝するためのポスターをかいてもいいですね。